

平成19年11月15日 交野市住民 森脇 榮一  
淀川水系河川整備計画原案に対する意見－2

## 歴史的景観を重視すべき日本民族歴史文化の中心舞台“淀川” 河川景観の整備・保全に対する河川管理者の姿勢は？

### 1. はじめに

淀川流域には古くから京都、浪速等に都が置かれ、日本民族の歴史・文化の中心舞台であり、華やかな貴族文化の様子が源氏物語、平家物語、万葉集などによって窺い知る事ができる。

従って、淀川水系河川整備計画原案（以下「整備計画原案」という。）に掲げる河川環境の整備・保全については、歴史的景観に十分に配慮すべきである。淀川水系流域委員会（以下「流域委員会」という。）における歴史景観の議論は希薄であったし、整備計画原案を見ても、①景観に関する用語、②「優れた景観地区」の選定及び景観整備・保全の対象物、対応の公平性、③揺るぎない河川景観整備（再生）・保全の共通理念の保持に問題があると思う。

### 2. 河川整備計画原案の景観に関する問題点と対応

#### (1) 景観に関する用語に関する問題点

まず、「4.2.7 景観」に記述されている「嵐山地区・塔の島地区の**優れた景観**」は川の畔で和歌や物語が綴られ、名所旧跡の存在により歴史を感じさせる景観である。（写真2-1）



塔の島への橋を望む  
左には宇治上神社、右には平等院



嵐山渡月橋より上流を望む  
左は紅葉の嵐山、右には天竜寺

写真2-1. 日本の歴史・文化を感じさせる景観

これに対して「鹿跳溪谷は**優れた景観**」は、鹿跳溪谷が自然の造詣を感じる景観であり、塔の島地区とは異質であると思うがその区別はない。（写真2-2）



滋賀県指定自然記念物  
鹿跳峡の甕穴

写真2-2. 自然の造詣を感じさせる鹿跳溪谷

景観の関連用語を辞典等から別紙—1のとおり整理したが、近年、重視されている「歴史的景観」は辞典には記載されていなかった。「10.河川景観の形成と保全の考え方」に記述の「11.河川景観の要素」の定義「治水・利水の取り組みや行事、風習等、歴史・文化的要素」を考慮して、嵐山地区や塔の島地区のような所は「歴史的河川景観」というような用語を決めて定義付けることが望ましいと思う。私は“「歴史的河川景観」とは、河川及び沿岸付近で古来より繰りひろげられた行事・風習の拠り所、和歌・俳句、物語に読まれた対象物やその状況及び史跡等の存在により、歴史・文化的な雰囲気を感じさせる景観”と定義したい。

鹿跳溪谷は「自然的河川景観」とすることも考えられる。

淀川本川の近傍には著名な名所・旧跡もないが、土佐日記、東海道膝栗毛、蘆刈等の物語が綴られている。(写真2-3)このような区域の河川景観の良い名称は思いつかない。景観に関する用語は、河川管理者が学識経験者に議論して頂いて決めることが望ましい。



写真2-3. 谷崎潤一郎文学碑

八幡市岩清水八幡宮近傍の展望台に設置され、淀川の葦原と山崎の天王山を眺めることができる。

蘆刈抄  
わたしの乗った船が州へ漕ぎ寄せたとき 男山はあたかもその絵にあるやうに まんまるな月を背中にして 全山の本々の繁みがびろうどのやうに 律やをふくみ まだどこやら 夕ばえの色が残ってる 中空に暗く濃く黒ずみわたっていた

碑文の案内板に落書きがしてあり読めない所があり、誤字があるかもしれない。

## (2) 「優れた景観地区」の選定及び景観整備・保全対象物、対応の公平性

優れた景観として名前があげているのは、嵐山・塔の島地区及び鹿跳溪谷の3地区だけである。

「4.2.7」に「河川管理施設等の新設及び改築に当たっては、法律や条令に基づき景観保全措置をおこなっている関係自治体と連携する。」と記述されているが地区名は明確にされていない。

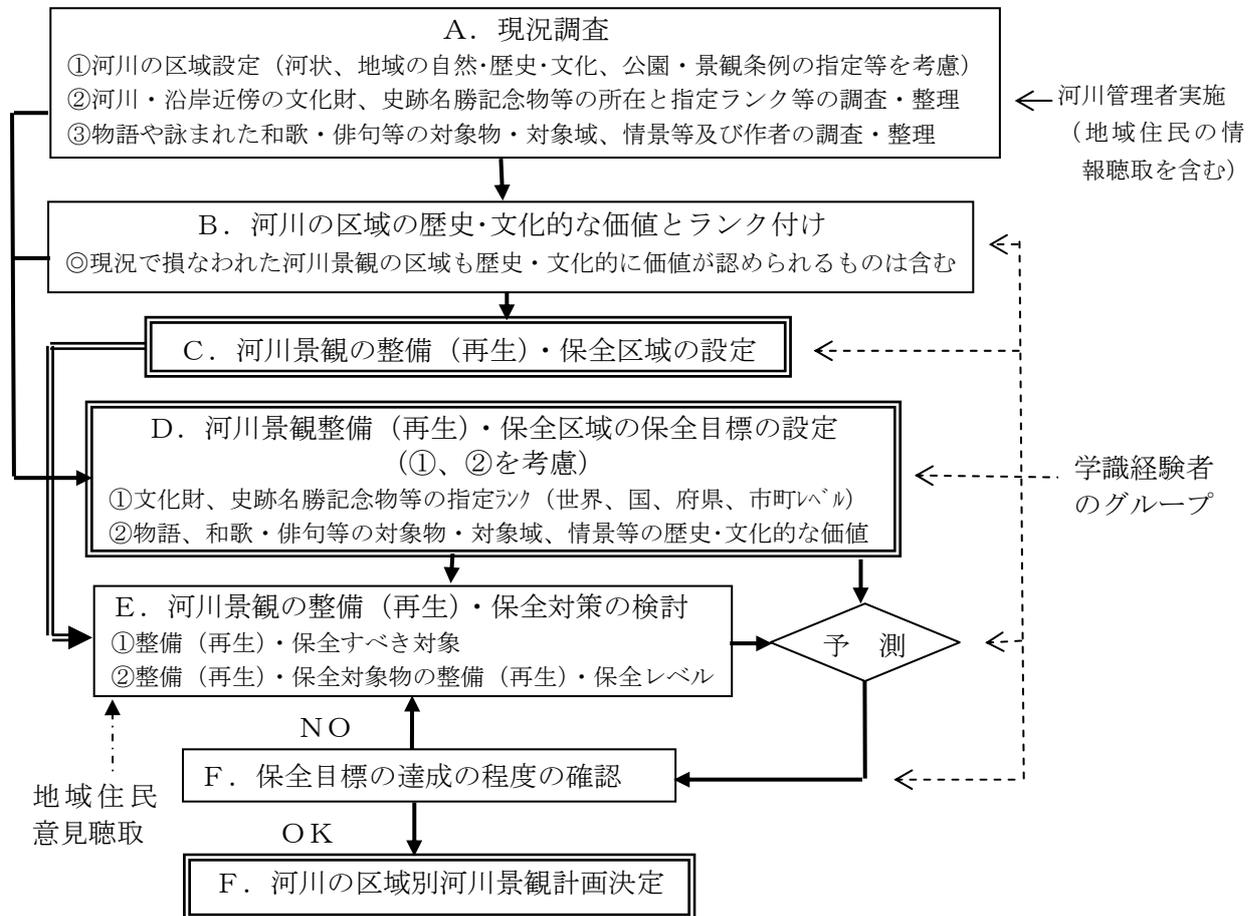
これを見て「優れた景観」は、自治体や団体が強く意見を出した地区に限られ、公平な選定がなされていないと私は思った。例えば「鹿跳溪谷」と、現在は景観が損なわれているが「土佐日記、蘆刈、東海道膝栗毛等に記されている淀川本川の在りし日の情景」を比較して、前者と後者の河川景観としての価値をどう評価するかという問題がある。

土佐日記、蘆刈等の物語や、和歌等の詠まれた淀川本川の情景を胸に刻むべく訪れる人も多い。

また「4.5.3.」に舟運復活のため河口から伏見港までの航行が可能なように整備するとしているが、舟運の活用は景観を楽しみ、淀川本川で繰り広げられた物語の場を探訪する観光の利用が多いと思われる。このような観光客に往古を偲び得る景観を再生・保全することも重要である。

(現在の優れた河川景観の区域だけを整備・保全するのではなく、景観が損なわれていても文

化・歴史的に見て優れた景観が存在していた区域を優れた河川景観に再生することも重要。) 河川管理者が景観の整備(再生)・保全(治水・利水との調和を図り)の取り組みには、公共費を支出するので、景観の整備(再生)・保全する区域の選定や対象物及び整備(再生)・保全の



レベルに公平性が必要であり、環境アセスの手順に準じて実施することが、公平な河川景観の整備(再生)・保全計画を円滑にまとめ得ることになると思う。

このことの実例は「宇治・世界遺産を守る会」の意見書(H19-10-12)の質問10. 名勝亀石の保全対策で京都府のレッドデータブックに記載されているから貴重とし、そして亀石の上流側の岩石の上部を破壊したことにも是非を問われている。

治水事業を行えば事業区域に存在する地形・地物等の環境(河川景観)に少なからず影響を与える。人の生命・財産を守る治水と河川景観の調和を図るとすれば、ある程度の河川景観の負の影響も受忍し、保全の要否、保全の程度等を考えなければならない。



写真2-4. 亀石

このような場合に環境アセスでは保全目標を定めている。例えば天然記念物の指定ランク(国、府県、市町村)を判断理由にして重要度区分を定めて、保全水準(Aランク: 厳正保護、Bラン

ランク：適正保全、Cランク：維持努力)を定めている。

私は、亀石の歴史・文化的価値は知らずに意見を述べるので、お叱りを受けるかもしれないが、**淀川流域、或は国レベルとして、公平性を持って景観保全対象物の重要度と保全目標を定めなければ、各河川の河川景観の再生・保全の面で混乱が生じて纏まらない恐れがある。**

この公平性ある景観保全対象物の重要度と保全目標を定めには、**その地区の河川景観に精通する学識経験者だけのグループではなく、淀川流域全域を俯瞰できる学識者の参加が必要である。**

### 3. 揺るぎない河川景観整備（再生）・保全の共通理念の保持

国土交通省の職員は、2～3年で転勤する。河川管理者は数値で表現できる治水・利水の対応は得意で、担当者が変わっても正しく引き継がれるが、数値で表現が困難な景観の整備（再生）・保全のあり方は、主観により様々に変わり計画策定時の意思が伝わらない可能性がある。

従って、その河川と区域の河川景観整備（再生）・保全の基本的な理念を「文字やイメージ図」に表して伝えていくことが重要であると思う。

私の担当した河川景観に関する業務を振り返り思うところを述べてみたい。

#### (1) 「河川工学百年の歩みと淀川」編纂に関する「宇治川塔の島」の景観問題

昭和50年4月に淀川工事調査第一課長に着任してまもなく、「河川工学百年の歩みと淀川の編纂委員会の事務局を担当し委員会に出席せよ」と命じられた。

編集委員会は委員長を石原 藤次郎氏（京都大学名誉教授）とし、委員は各大学の河川工学の教授・助教授が河川工学の技術の発展と淀川改修計画への応用等の歩みを編集するものである。

私の役割は事務局として、会場設営、委員への連絡、経費の確保・支出の裏方の仕事である。

ところが編集委員会で「3.2.4 水環境と景観問題」は事務局で素案を纏めるように言われた。

私は景観問題を割り当てられたが、当時は景観問題に関する資料が乏しく、止む無く淀川工事の工務課が担当していた「宇治川橋付近景観保全対策協議会（会長 矢野 勝正 京大名誉教授）」の検討成果を引用して素案をまとめ、編集委員会において了承を得た。

「宇治川橋付近景観保全対策協議会」の検討結果は、河川法の目的に「環境」がない時代に、宇治市の代表者の意見を得て良い成果を得られたと思ったが、注目すべきは次の記述である。

「河道切下げによって、平常時の水位が低下し、宇治橋・塔の島付近の景観を大きく変化させることになる。この対策として堰を設けて貯留し、水位低下を回復させることも可能であるが、水量が豊かで急流という宇治川の最大の特徴を失うことになりかねない。

この問題については、宇治商工会議所は、貯留型とすれば、ボート遊び・鵜飼等を本流で行うメリットがあると賛成していた。

一方、協議会の方は、可動堰を設けることは治水上の支障及び**“水量豊かな急流としての宇治川”**の特徴を保存するという観点から、本流急流案を有利とした。（別紙—3 16頁）

特に重要な記述は**「水量豊かな急流としての宇治川」**であろう。周知のとおり平家物語の「宇治先陣争い」は2人の源氏の二人の武将が名馬磨墨（するすみ）と愛馬生喰（いけづき）乗り、宇治川の対岸に向けて先陣争いをする物語であり、塔の島には「宇治先陣争い」の碑が建てられている。（写真3-1）

高時川ダム調査事務所に勤務していた頃に余呉町役場での打合わせが終わり町長に面会した。町長は「宇治先陣争いを知っているか。」と尋ねられた。私は「幼稚園の頃に何かの絵本で見た

ことがある。」と答えると、町長は、「磨墨が先陣争いで生喰に負けたように書いてあるが、生喰に乗った佐々木 四郎に騙されたからであって、本当は磨墨が勝っていた。佐々木 四郎は卑怯者である。」と言われた。

私は、漫画ごときでこだわる町長は大人気ないと思ったが、更に町長は「名馬磨墨はわしの在所の余呉町摺墨（するみ）で育てられた。」と自慢されたので、ようやく磨墨に拘られた理由がわかった。

このように宇治市民、余呉町民は「宇治先陣争い」の場を誇りに思い、また、平家物語を読み宇治を訪れた観光客も「宇治先陣争い」の情景を脳裏に刻み流れを見るであろう。

この場合に堰で湛水した光景では歴史的河川景観として相応しくないのである。そのため「宇治川橋付近景観保全対策協議会」では「水量豊かな急流としての宇治川」を保全する方向になったのであろうから、「水量の豊かな急流」の面影を残すことが宇治川の歴史的河川景観保全の共通理念であると思う。

最近、世界遺産の「宇治上神社」の近傍にある「源氏ミュージアム」を訪れ、「浮舟」の映画を見た。浮舟は二人の公達に想いを寄せられ、思い悩んで宇治の流れに飛び込んだが、下流の岸辺に漂着し助けられて仏門に入るのである。この物語でも「水量豊かな急流としての宇治川」でなければならないのである。

## （2）桂川の嵐山地区の揺るぎない河川景観のあり方は？

保津川降りは、保津橋で乗船して、しばらくは緩流であるが、峡谷に入って急流になり渦巻く流れの中を進み、水しぶきを被りスリル満点に降っていく。大変な緊張と興奮を感ずるが、処々に瀟があり、ここで周辺の景色を眺めて憩うのである。船降りの終着は嵐山であり、一ノ井堰で湛えられた水面の広がり、言いやのない安堵感と満足感を覚える。また調査のために淀川合流点から嵐山まで桂川を歩いた所感を述べる。桂川には、1号から6号井堰と灌漑用水を取水する久我井堰と一の井堰がある。

桂川は、せせらぎとなって流下し井堰の上流で滞流する。特に久我井堰と一の井堰は、湛水域の面積が広く、久我井堰の湛水域周辺の岸辺は植生が豊かで、ヤナギが水面に映る優れた自然景観である。

（写真3-2）

一方、一の井堰上流は溪谷部の出口であり、山の斜面の紅葉や新緑の若葉を水面に映す景色は美しく、平安時代の舟遊びを再現する春の「嵐山三舟祭」は、舞の奉納や芸の上達を願って扇流しが行われる。秋には「嵐山紅葉祭」が行われ舞楽と雅楽を演奏しながら舞う「平安

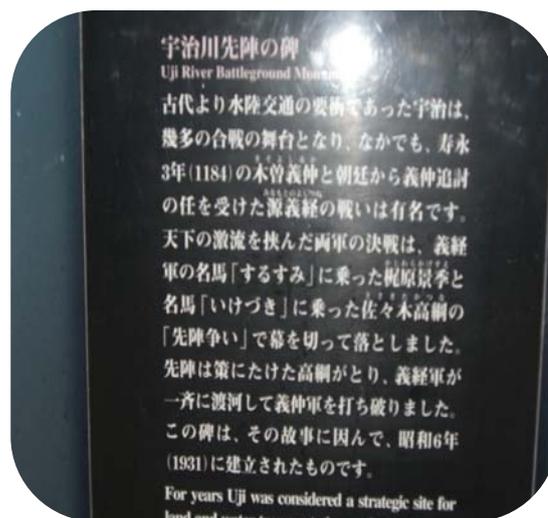


写真3-1. 宇治川先陣争いの碑  
塔の島に建立



写真3-2. 一の井堰上流を望む

管弦船)、菊の花で飾った「大覚寺船」等の歴史を彩る10数隻の船が漕ぎ出す。今後も格調ある伝統行事として後世に伝えられるであろう。ま(写真3-3)



管弦船



いけばな船

### 写真3-3. 嵐山紅葉祭

このような情景を考慮すると、「せせらぎ、憩いつつ流れる川」でなければならないし、「せせらぎ、憩いつつ流れる川」の面影を残すことが嵐山の歴史的河川景観の共通理念であると思う。

#### (3) 失われた淀川本川の歴史的河川景観の再生は？

紀貫之の土佐日記によると奈良時代には既に、淀川本川は難波から京都への水上交通の要路であったことが伺われる。その頃の景観を土佐日記により推測すると淀川本川は、大阪平野を千々に乱流して水深が浅く処々に「たまり」や「わんど」があり葦が広く生育していたと伺われる。

東海道膝栗毛の弥治さん・喜多さんも同様にこの景色を見たことであろう。従って、淀川本川は、「葦原を縫い豊かに流れる淀川」が歴史的河川景観の共通理念であると思う。

明治に入りデレーケ等が計画した水制工による低水路工事及び、沖野忠雄が策定した淀川改良計画による堤防工事によって、淀川本川は乱流しなくなったが、幹部水制工と頭部水制工に囲まれた水域が、土砂によって埋没した低地や浅い水域部には葦等が生育し、水衝部で水域のままのワンドにはサギ、カモ類が訪れ景観に風情を与えていたであろう。

谷崎潤一郎はこのような景色のもとで名作「蘆刈」を書いたのである。

さらに、淀川工事実施基本計画改定による低水路掘削工事により、低水路の拡幅と河床の切り下げが行われ、治水の安全度は飛躍的に向上したが、高水敷は干陸化し葦原は衰退した。

このような淀川本川の状態において、大阪府景観条例による「淀川等景観形成地域の指定範囲」においては、「淀川の自然・歴史環境と都市文化が融和すると共に、・・・以下略・・・」として淀川の歴史的景観の再生・保全を期待している。また10数年前に河川環境管理計画の空間管理計画が学識経験者による委員会策定されているはずである。その基礎資料として、淀川の歴史・文化や史跡・名勝が整理され、橋梁横架地点を拠点として沿川の史跡・名勝を訪れることのできるネットワーク計画も作られていたはずである。

整備計画原案では「法律や条令に基づき景観保全措置をおこなっている関係自治体と連携する。」としているが、近畿地整は関係自治体と連携する前に、空間管理計画等を活用すると共に学識者の意見を得て、淀川本川の歴史的景観の再生・保全に関する共通理念を持ち、自ら積極的に取り組んでいただきたい。

以上

## 別紙—1

## 景観に関する用語

1. 都市景観：・・略・・歴史的・伝統的都市景観のノスタルジアが、この都市景観ということばに凝縮されているようである。（「現代用語の基礎知識 自由国民社」より）  
（ノスタルジア：nostalgia 憂愁、懐郷病 憂愁：うれしい、悲しみ）
2. 景 観 #角川国語辞典 風景。景色。  
\*新明解国語辞典 ①見るだけの価値を持った特色ある景色。②その地域の野外風景のうち、山・川・湖沼・森林などが形成する「自然景観」と人の営みの加わった集落・耕地・交通路など「文化景観の」の称。
3. 風 景 #角川国語辞典 ながめ。けしき。ようす。状態。  
\*新明解国語辞典 ①目を楽しませるものとしての自然界の調和の取れたようす。  
②写生画の題材としての風景（画）、またそれを描いた絵。
4. 景 色 #角川国語辞典 山水・風物等のおもむき。風景。光景。  
\*新明解国語辞典 鑑賞に堪える自然物の眺め。
5. 風 物 #角川国語辞典 ながめ。けしき。  
\*新明解国語辞典 ①目に見える自然の中にある物。②その土地の季節季節を特徴づける物。
6. 光 景 #角川国語辞典 （そこに見える）ありさま。けしき。  
\*新明解国語辞典 ①その人が実際に目で見た、印象深い景色やショッキングな出来事。
7. 眺 望 #角川国語辞典 けしきを見わたすこと。ながめ。見晴らし。展望。  
\*新明解国語辞典 「ながめ」の意の漢語的表現
8. ながめ #角川国語辞典 みわたすこと。また、そのけしき  
\*新明解国語辞典 目を凝らして見るに価するもの（狭義では自然の風景をさす）
9. 修 景  
「修景」の用語は良く用いられているが、角川国語辞典、新明解国語辞典、現代用語辞典にも記載されていない。
10. 河川景観：河川景観とは「地形、地質、気候、植生等様々な自然環境や人間の活動、それらの時間的、空間的な相互作用、そしてその履歴等を含んだ環境の相対的な姿」として考えるべきものである。（「河川景観の形成と保全の考え方」より。H18-10月）
11. 河川景観の要素：地形・地質・生態系等の自然的要素（自然の営み）に加え、古くからの治水・利水の取り組みや行事、風習等、歴史・文化的要素（人々の営み）により河川景観が成立している。（「河川景観の形成と保全の考え方」より。H18-10月）

◎歴史的景観 私の所有する図書・文献では「歴史的景観」の熟語の定義はなかった。

また、ヤフーで検索しても熟語は確認できなかった。

「歴史にかかわるようす（雰囲気）のある風景」であろうか。（歴史辞典等に記述されているかもしれない。）